

**金沢区地域子育て支援拠点事業
令和7年度重点目標評価結果・令和8年度重点目標**

事業実施期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日(4年度目/5か年度)
事業の実施者	公益財団法人 横浜YMCA
	金沢区こども家庭支援課
事業目的	市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。 【事業・施設運営の基本理念】 1 金沢区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わるができる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営
事業の内容	1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること (横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。

令和7年度重点目標の評価

令和7年度重点目標	①子育てを応援してくださる方の発掘と育成に加え、継続的に活動できるよう支援することで、これまで以上に学生からシニアの方々が子育て世代と関わりが持てるようになります。 ②金沢八っさく(子育て練習室)の認知度を向上させ、必要な方に受講してもらうことで、前向きな子育てができる養育者の増加を図ります。 ③休館日や閉館時間を活用した取組を進め、様々な事情により通常時間の利用が難しい方が拠点を利用するきっかけとします。
取組内容	①-1「かなざわっこを共に育む応援プロジェクト」では、子育てのサポーターの新規確保に向けこれまで子育て分野と関わりの薄い団体等にも講座への参加を働きかけるとともに、新たな媒体等での周知も行います。 ①-2 近隣の大学生や高校生が活躍できる場として拠点を活用してもらうよう、チラシの配架や会議での周知、大学・高校のボランティア窓口を通じた広報などに取り組みます。 ②「金沢八っさく(子育て練習室)※」の受講者増に向け、子育て支援者や幼稚園などでのプチ講座の実施を通じて講座の認知度を高めるとともに、日程や回数等を見直し、より参加しやすい講座になるよう工夫します。 ※お子さんへの前向きな声かけなどをロールプレイング形式で練習する講座 ③-1 発達気になるおじさんの居場所となるよう「ほかほかひろば」を休館日に開催するとともに、ひとり親・ワンオペ育児の方にもこれまで以上に拠点を利用してもらえるよう「ゆうがたほっとひろば」を閉館後に定期開催します。 ③-2 「ほかほかひろば」や「ゆうがたほっとひろば」について、こども家庭相談や乳幼児健診等の個別相談対応時に細やかに声かけするなど周知を強化します。
取組の成果	① 大学生や中学生など、延べ126名のボランティア・実習生を受け入れ、多世代交流を促進しました。「かなざわっこを共に育む応援プロジェクト」に130名の申し込みがありました。また、子育て応援ボランティア説明会等を通じて、延べ298名がとことこボランティアとして活動されました。 ② 地区センター等で計12回開催し、拠点(とことこ)での開催希望が多かったため急速に講座を追加するほどの高いニーズがありました。とことこひろばでの声かけの他、乳幼児健診会場での直接周知や、デジタルサイネージ、パマトコによるプッシュ通知が受講者増につながりました。 ③ ひとり親・ワンオペ家庭対象の「ゆうがたほっとひろば」(109組・大人109名・子ども207名利用)や、発達気になる親子対象の「ほかほかひろば」(57名利用)が、通常の時間帯では来館しづらい親子の居場所として定着しました。また、フードパントリーやおむつバンクを通じて食料品やおむつの提供をすることで、多くの親子の不安が軽減されました。
取組の課題	① 学生ボランティアが継続的に活躍できる仕組みづくりや、大学・高校の窓口とのネットワークづくりが必要です。 ② まだ情報が届いていない層への認知度向上に向けた取組が求められます。 ③ 必要とする方に情報が届くような工夫が引き続き重要となります。

次年度重点目標

令和8年度重点目標	① 拠点が「多世代交流の場」となれるよう、学生からシニアのボランティアまで一人ひとりの強みが日常の支援に活かされる場づくりを目指します。 ② 金沢八っさく(子育て練習室)の認知度向上として、「まだ情報が届いていない層」へのアプローチを行い、前向きな子育てができる養育者の増加を図ります。 ③ 休館日や閉館時間を活用した取組を行い、様々な事情により通常時間の利用が難しい方が拠点を利用するきっかけとします。 ④ 「第5期 金沢区子育て支援の協働の指針」の今年度取り組む2つの柱である「1. 親子がほしい情報が見つかる発信の仕組みづくり」と「4. 子育てを支える持続可能なネットワークづくり」に向けて、区と協力して取組を行います。
取組内容	①-1 拠点でのボランティアについて、対象別に広報手段を工夫し、(シニア世代にはチラシや区報、学生向けにはInstagram・大学や高校のボランティア窓口等)周知活動を強化します。 ひろばでの関わりや他、手作りおもちゃの制作等、ボランティアの持ち味を活かした活動を推進していきます。 ①-2 「かなざわっこを共に育む応援プロジェクト」等を通じて、ボランティア同士の交流やスキルアップの場を充実させ、活動への満足度を高めます。また、子育てのサポーターの新規確保に向けこれまで子育て分野と関わりの薄い団体等にも講座への参加を働きかけるとともに、新たな媒体等での周知も行います。 ② 「金沢八っさく(子育て練習室)※」の周知について、講座参加につながるよう、親と子のつどいのひろば・子育てサロン等で「講座紹介」を実施します。 乳幼児健診や個別相談の機会を活用し、特に不安を抱える養育者へ細やかに声をかけ、受講を促します。 ※お子さんへの前向きな声かけなどをロールプレイング形式で練習する講座 ③ 対象者を明確にした事業(父親・発達気になる親子・ひとり親やワンオペ育児をしている方)について、関係機関や地域に向けて主旨を正しく伝えることで、必要とする親子に届くようにします。 「ほかほかひろば」や「ゆうがたほっとひろば」を継続し、拠点がインクルーシブな居場所となるように努めます。 「フードパントリー」や「おむつバンク」を通じ、「支援を受けた方が、次は支える側になる」という温かなムードを地域全体に広げていきます。 ④ 地域の方が活用できる情報発信ツール(ひろばへの掲示・HPかなざわ子育てイベントカレンダー・LINE)の案内を掲載した「とことこからの情報発信3選」チラシを活用し、様々な会議体を通じ、拠点の情報収集・提供事業についてPRしていきます。 支援者向けの勉強会や交流会を企画し、支援者同士のつながりづくりを支えていきます。